

4 赤塚地区の課題整理

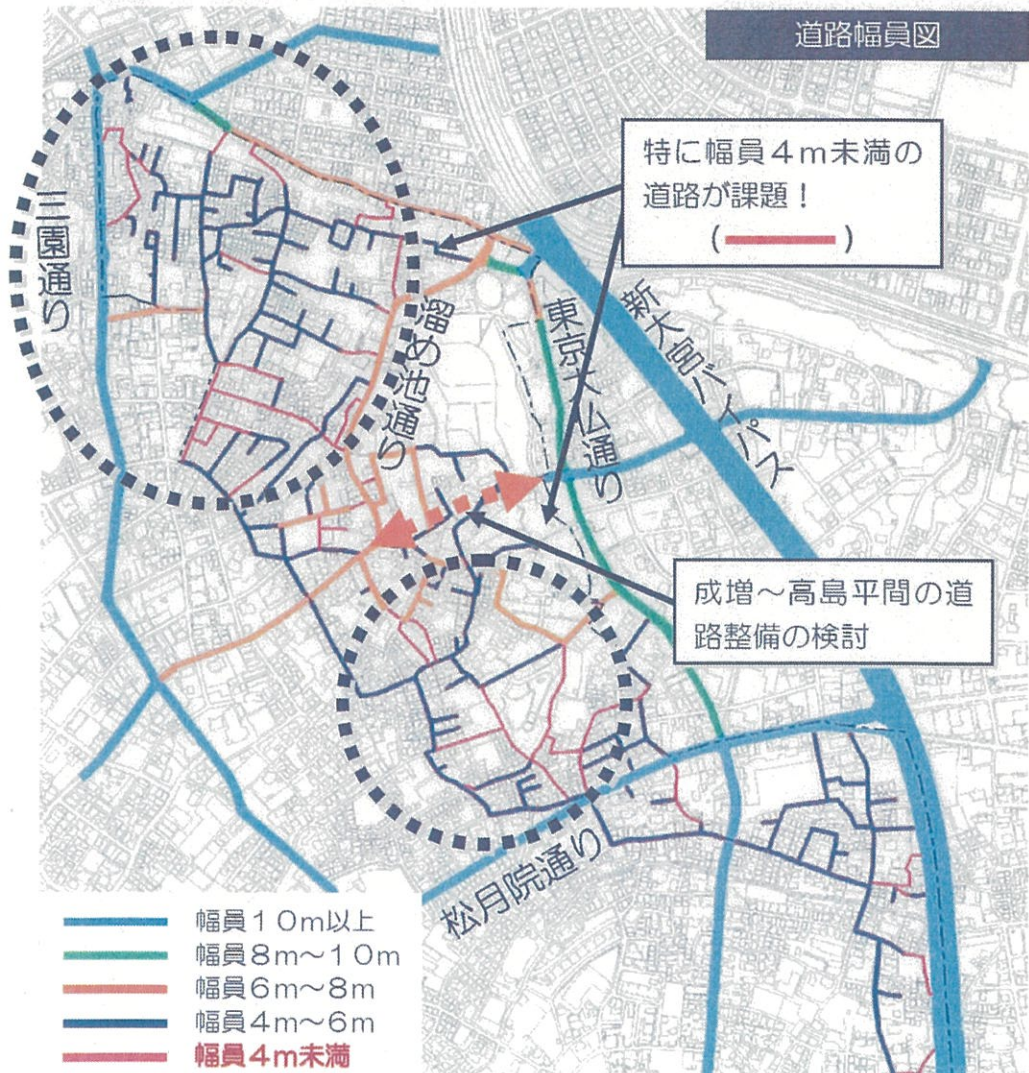
(1) 項目別課題の整理

① 道路の状況について（道路幅員）

概ね、松月院通りより北側には、幅員4m未満の狭い道路や行き止まり道路が多く存在し、道路の安全性や緊急時の対応などに課題がある。

<まちづくり協議会での主な意見等>

- 車と歩行者の安全な通行に不安がある。
- 緊急車両が通れない問題は、防災面と救急医療に関係してくる。緊急車両が迅速に現場へ到着し活動できなければ、命が助からないこともある。
- 災害時にスムーズな避難ができなくなってしまう。
- 行き止まり道路では、入り口が火災や建物の倒壊などで通れなくなると、閉じこめられてしまう。
- 成増～高島平間の道路は必要だと思う。まちづくりを考えていく上で、視野に入れる。



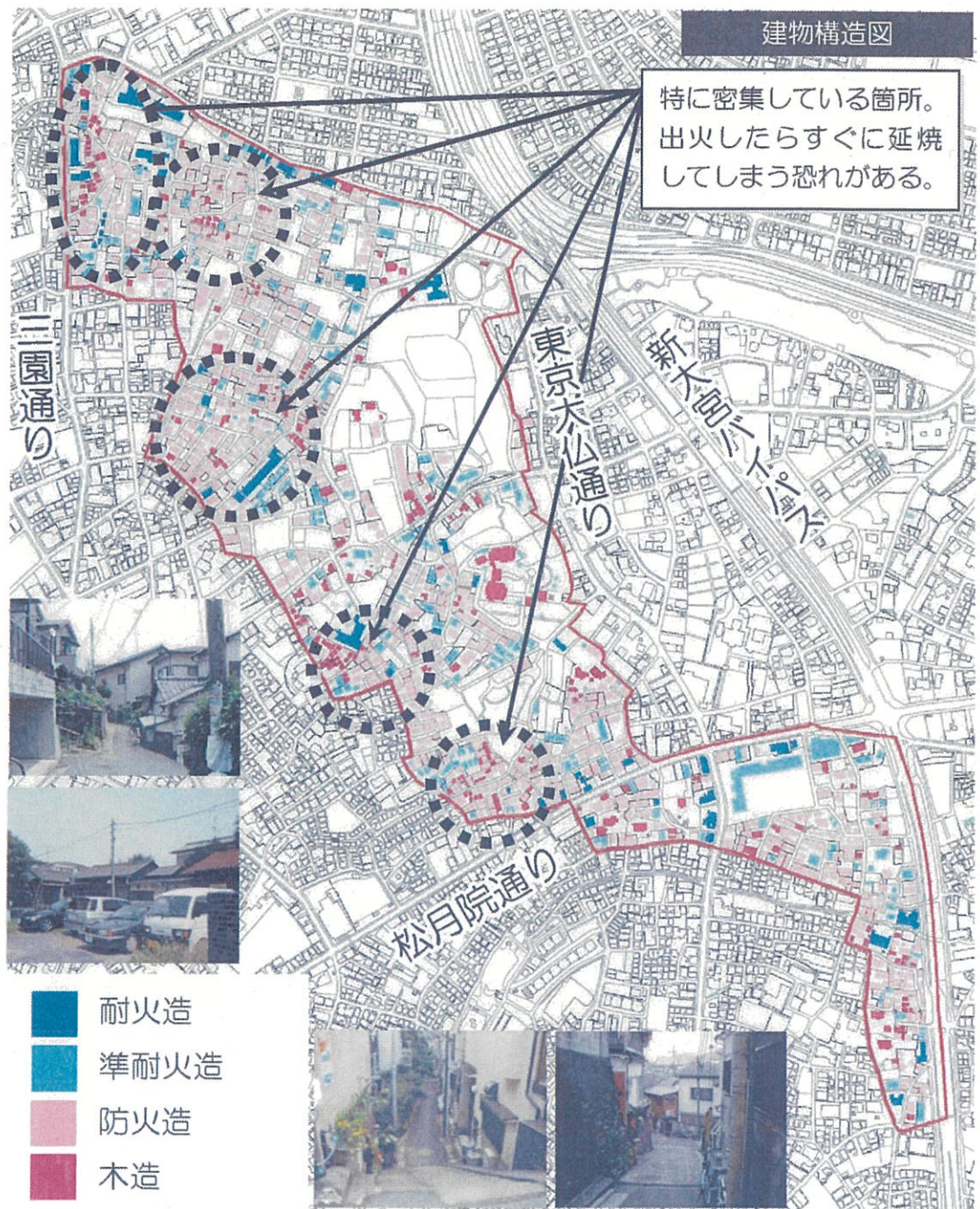
②住宅の状況について（建物構造・密集）

概ね、松月院通りより北側には、所々に木造住宅が密集した区画があり、防災面や住環境の課題がある。

<まちづくり協議会での主な意見等>

○密集しているところについては、一つでも建物が火災になったら、すぐに延焼してしまう。

○日当たりや風通しが悪くなる。

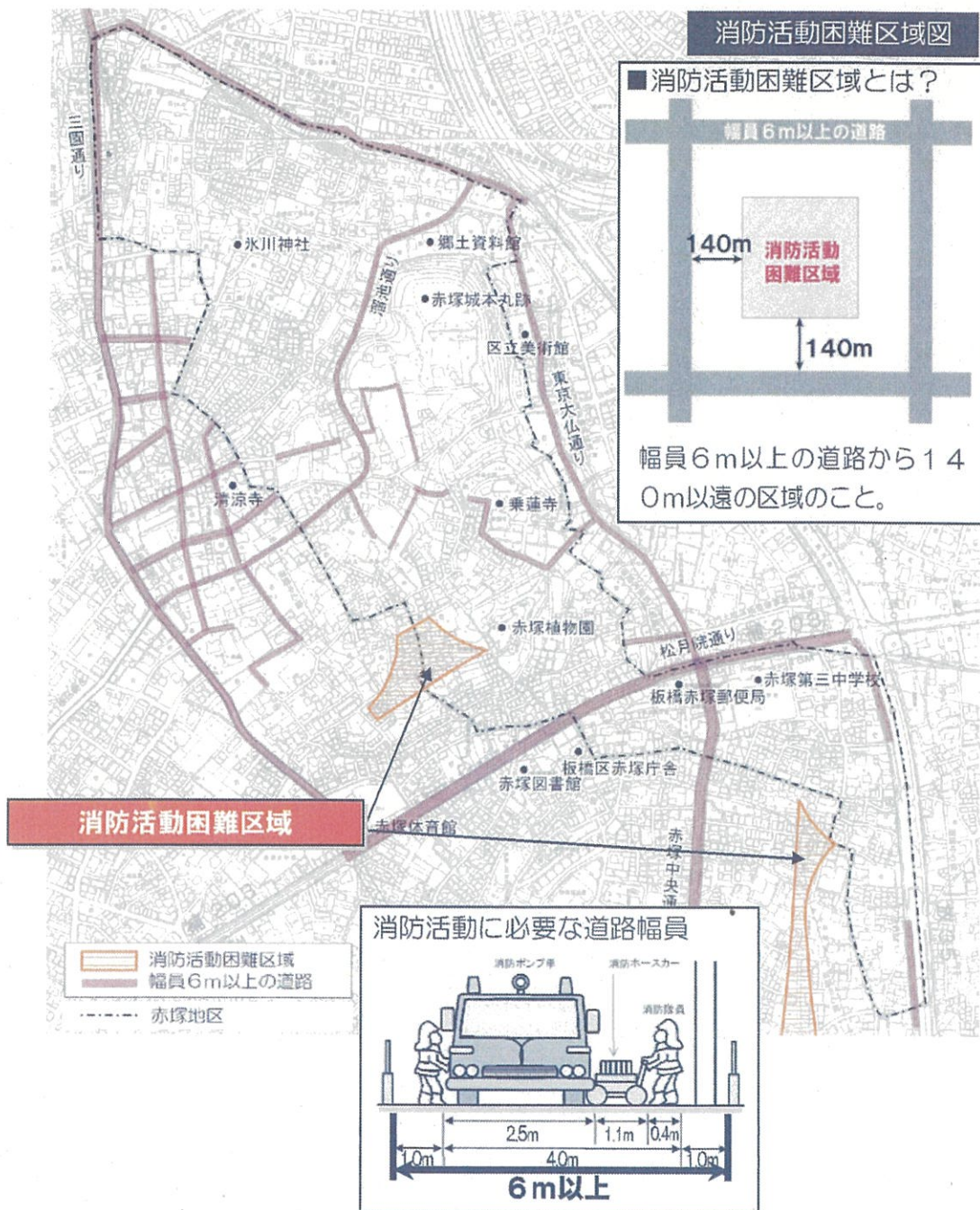


③防災面（消防活動困難区域）の状況について

赤塚5丁目と赤塚7丁目の一部に「消防活動困難区域」が残されており、消防車のホースが届かない箇所がある。

<まちづくり協議会での主な意見等>

- 緊急車両が通れない問題は、防災面と救急医療に関係してくる。緊急車両が迅速に現場へ到着し活動できなければ、命が助からないこともある。
- 火災時に迅速な消火ができないことを考えると不安。

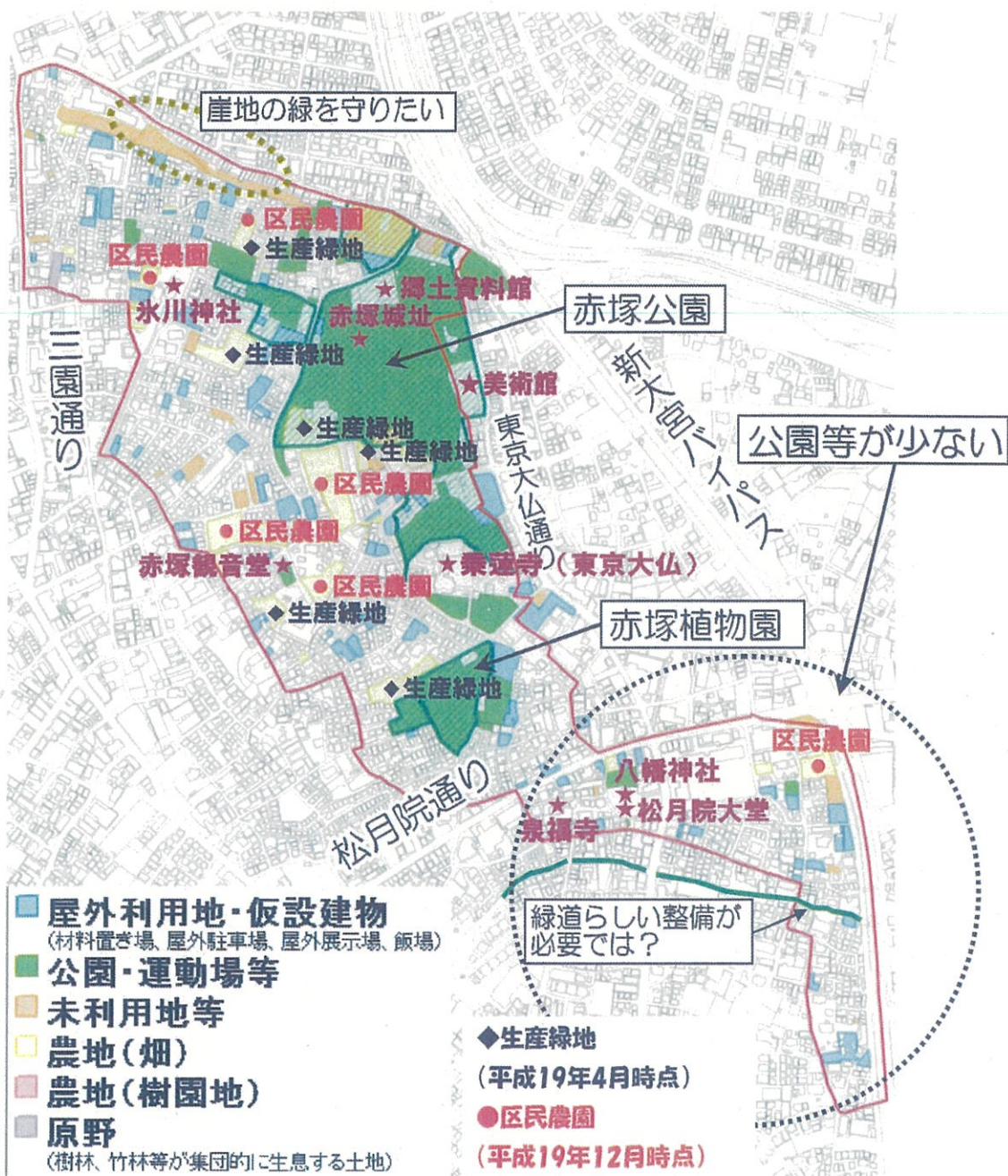


④オープンスペース（公園・広場・緑地など）や歴史資源の状況について

- 赤塚5丁目を中心に、公園や緑地が多数整備されているが、赤塚6・7丁目については、公園や緑が少ない状況にある。
- 寺院や植物園、郷土資料館等の歴史的・文化的資源が残されている。

<まちづくり協議会での主な意見等>

- 公園、畑、民家の樹木、古木などの緑が多く将来に保存していきたい。
- 崖線の緑を残していきたい。
- 古井戸やほこらが残されているところがある。
- 郷土資料館や美術館、植物園などの文化的な施設がある。



(2) まちづくりアンケートの集計結果（不満足度評価）・・・その他の結果は資料編を参照

平成21年8月18日に「まちづくりアンケート調査」を実施し、地区内に住んでいる、あるいは地区内の土地や建物を所有している権利者のご意見を伺った。

実施期間	平成21年8月18日～9月10日
配布対象	赤塚地区内に土地・建物をお持ちの権利者
配布数	2,762通
回収数	365通（回収率：13.2%）

赤塚4～7丁目それぞれの不満足度評価を見ると、地区によって、皆さんが感じる課題傾向が異なっていることがわかる。

■：道路の安全性等 ■：防災関連		赤塚 四丁目	赤塚 五丁目	赤塚 六丁目	赤塚 七丁目
A	自転車が通行する際の道路の安全性	1	1	2	1
B	子供連れ、お年寄りも安全に歩ける歩行空間	2	2	1	2
C	階段や行き止まり道路などの改善	3	9	9	8
D	狭い家が密集する建てつまりの解消	4	3	5	9
E	消防車、救急車等も通行できる、地区内の主要な道路	5	4	-	10
F	災害時の避難場所や避難路の確保	6	8	-	4
G	日常の買い物などの利便性	7	7	-	-
H	交差点の安全性	8	5	6	5
I	スポーツできるような広い公園	9	6	10	-
J	防犯上の安全性、治安	10	-	3	-
K	きれいなまちなみ、良好な景観	-	10	-	3
L	身近な子供の遊び場	-	-	8	6
M	家の周りの生活道路	-	-	-	7
N	自動車の騒音・振動	-	-	4	-
O	現在お住まいの建物の広さ	-	-	7	-

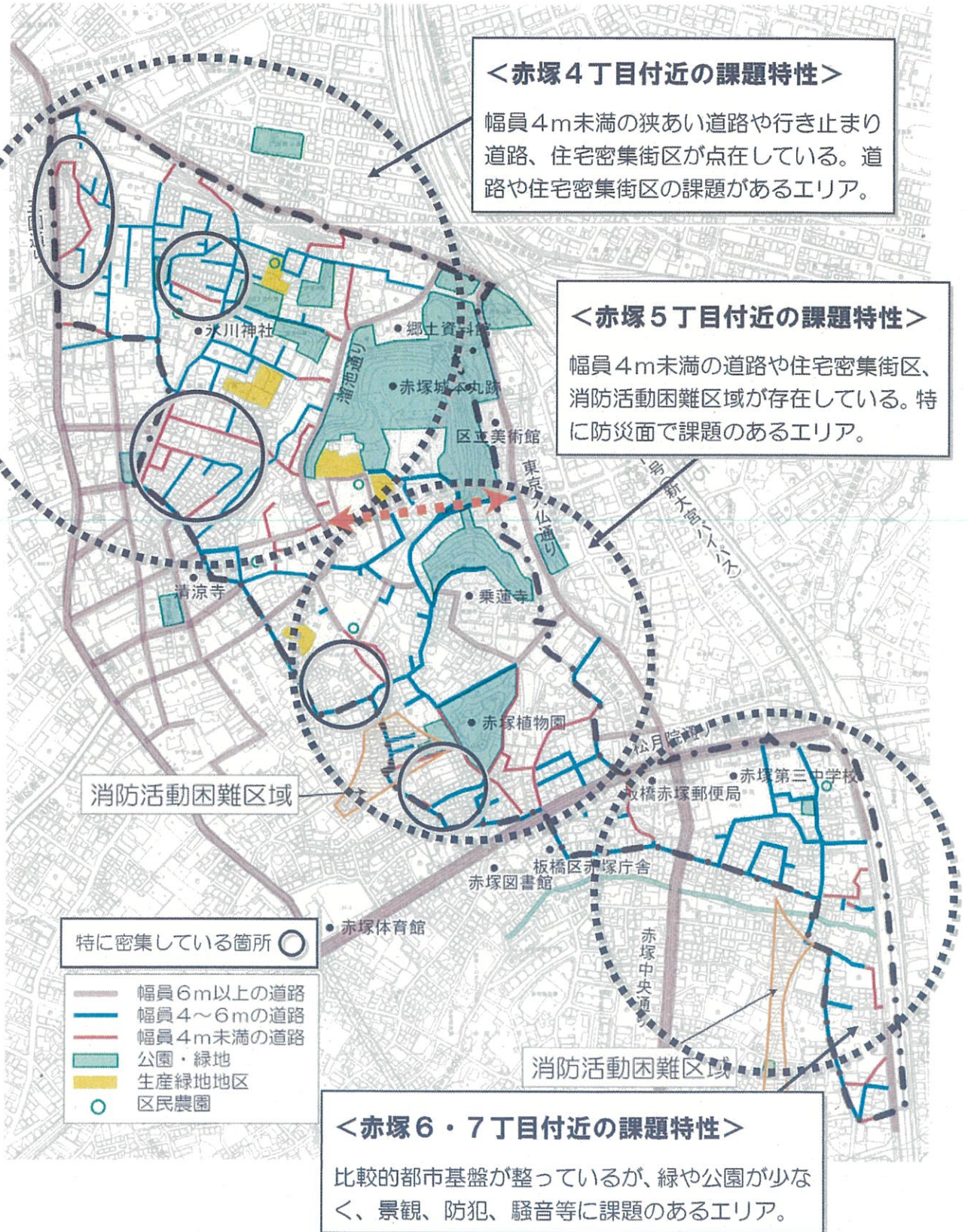
表の見かた：ワースト10位を表しており、数字が若いほど「満足度が低い」。また、ワースト5位までは、赤色で強調している。

<表から見る課題点（ワースト5位までのポイント）>

赤塚4丁目	●歩行者や自転車で通行する際の道路の安全性 ●行き止まり道路や住宅密集 ●狭あい道路
赤塚5丁目	●歩行者や自転車で通行する際の道路の安全性 ●住宅密集 ●狭あい道路
赤塚6丁目	●歩行者や自転車で通行する際の道路の安全性 ●防犯、騒音・振動
赤塚7丁目	●歩行者や自転車で通行する際の道路の安全性 ●景観 ●避難場所や避難路

(3) 課題特性のまとめ

上記①～④の課題は以下のようにまとめられ、赤塚地区内においても、場所によってまちの状況や課題が異なっている。



5 地区区分(案)とまちづくりテーマ

上記より、赤塚地区内においても、地区によって課題の傾向が異なっている。よりきめ細やかな計画づくりを進めるため、課題の傾向および都市基盤の整備状況を踏まえ、以下のように地区区分する(地区界は地形地物を原則とする)。

(1) 赤塚北部地区

良好で安心できるまちづくり

幅員4m未満の狭い道路や危険な道路、住宅密集街区等の改善により、歩行者や自動車等に安全な道路を確保していくとともに、防災にも強いまちを実現するため、「良好で安心できるまちづくり」を進める。

(2) 赤塚中央地区

防災をテーマとしたまちづくり

消防活動困難区域、住宅密集街区等の改善により、災害時においても安心できるまちを目指し、防災を主眼においた「防災をテーマとしたまちづくり」を進める。

(3) 赤塚南部地区

生活環境の向上に向けたまちづくり

比較的都市基盤が整備されている地区であり、地区の環境をより高めながら、みどりやオープンスペースなどが適切に配置された快適なまちを目指すため、「生活環境の向上に向けたまちづくり」を進める。

